

## JCHO登別病院の 存続移転と防災体制

若木康夫



大綱2件、JCHO  
登別病院の存続移転と  
防災対策について質問  
しました。

JCHO側はかねてより、「札幌からのアクセスが良い駅周辺」を候補地として希望しており、存続対策協議会も候補地を個別、登別の両地区に絞って今後協議を進めるとのことから、JR駅からの徒歩圏内にとまった広さの市有地が確保でき、また白老、登別温泉、登別、幌別、室蘭など各方面から車での来院に利便性が高く、インターチェンジにも近い、登別東町3丁目付近が移転先として妥当ではないかと提案しました。

また、防災対策では1月19日の越波の被害状況や、海面上昇が要因と思われる本市での海岸浸食の実情、波打ち際の進行を示し、その対策として、護岸擁壁のかさ上げ、波消しブロックの敷設や国道36号線幌別バイパスの防波柵の設置を国や道により一層働きかけるよう要望しました。

## 学力の向上と 健全な子どもたちの育成

小栗義朗



本市では、児童生徒の基礎学力の定着や学習意欲の向上を図るため、放課後学習教室を

小学校6校、中学校2校で実施していますが、今後、全校で実施する見込みがあるかをたてました。  
経済格差が健康格差を引き起こし、口腔内のケアにも格差が生じています。口腔内の健康が全身の病気の原因とまでいわれていますが、軽視されがちです。学校の歯科検診の結果、治療が必要とされても経済的理由で治療に行けない場合はどのように対応しているのか伺いました。

介護職の人材不足は深刻で、子育ての忙しい時期に親の介護が重なる「ダブルケア」という問題も生まれています。このため、子どもたちに介護を正しく理解してもらうとともに、将来、介護の職業が選択肢の一つとして考えてもらえるよう、積極的に授業に取り入れていく必要があることから、市の見解を併せて伺いました。

## 登別駅の未来づくりに向けて

辻弘之



JR登別駅を含む登別地区周辺環境の整備について質問しました。

①外国人観光客急増に  
対して、今後市内飲食店の多言語メニュー作成支援が行われることになりました。  
②国立アイヌ文化博物館が白老町に建設予定となっていることを受けて、博物館の本来的趣旨であるアイヌ文化伝承に主眼をおき、市内事業者や市民がアイヌ民族への敬意ある活動を行えるよう、教育機会が提供されることになりました。  
③豪華寝台列車「四季島」が登別駅に発着することについて、住民によるおもてなし環境の整備や、事業者による新たな商業の機会づくりに向けて協議が行われることになりました。

④観光客が登別駅前から域内移動する手段について、行政が調整役になり、駅前のタクシー事業者などに新たな事業開発を提案していくことになりました。  
⑤これらを踏まえて、登別駅を含む登別地区周辺環境の整備を目指した官民協働による協議会が、本年4月をめどに設置されることが示されました。

## 市政執行方針に 若年世代の施策も必要！

二瓶秀幸



市政執行方針では、人口減少や少子高齢化問題について「若者（生産年齢人口）が減

少し、市税の確保が難しくなり、公共サービスが維持できなくなるため、人口減少のスピードを緩める取り組みを進めなければならぬ」とのことですが、市政執行方針や第3期基本計画を見ても、子ども・高齢者・障がい者にスポットを当てた施策が中心であり、若い年代にも施策を打たなければ、人口減少と少子化対策は難しいの思いつから質問しました。  
① 独身世代に対する市の支援がないが、国の財政支援メニューはなかったのか。  
② 北海道胆振総合振興局から地域少子化対策重点推進交付金について市の意向を求められたが、申請期間が非常に短かったことから手を挙げなかった。

③ 子育て世帯に市営住宅の空き部屋を2戸改修して支援したが、若年子育て世帯枠を確保して支援する考えは。  
④ ほかの人居希望者とのバランスを配慮し、子育て支援のあり方について研究したい。